

とっとり産業フェスティバル2011 ポスター発表

倉吉重要伝統的建造物群保存地区拡大にむけての実践的研究  
—看板建築の復原・活用と「昭和レトロ街」構想—

発表者

○浅川滋男 鳥取環境大学大学院環境デザイン領域 教授

**概要** 倉吉の打吹玉川重要伝統的建造物群保存地区は、2010年度の文化庁答申で範囲の拡張がみとめられた。かつてアーケード商店街であった拡張区内には町家の外側に箱物の構造物を被せる「看板建築」が多数現存しており、今後の町並み整備にあたって「看板建築」の修景が必要不可欠になってきている。ただ、修景事業が進んで町並み景観が向上しても、定住者・観光客が減少し、町が活力を失ったのではなんの意味もない。本研究では、「歴史の重層性」を表現するオーセンティックな町並み保全のあり方として、これまで否定されがちであった「昭和戦後」という時代を積極的に評価し、一部の看板建築はあえて復元的修景ではなく、現状保存の対象とするとともに、重伝建拡張エリアのなかに昭和の要素を集中的に集めた「昭和レトロ街」を構想した。

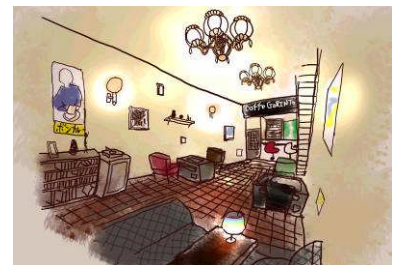
「昭和レトロ街」構想

**A案** 本町通り商店街の一部に短いアーケードを再現し、内部に昭和の要素を凝縮したエリアをつくる。敷地は、①典型的な看板建築「柵井陶器店」があり保存が可能、②『遙かな町へ』に描かれた風景を3シーン含む、③駐車場や空き地が多く新築・移築の計画が可能、の三条件から決定した。アーケード内部には看板建築を「喫茶店」に移築&コンバージョン（後述）したり、映画館の新築したりするほか、駄菓子屋・鯛焼き屋・貸本屋・旅館など昭和の風情溢れる施設を集中させる。さらに、昭和レトロのデザイン要素をファサードにちりばめる。整備案Aは重伝建地区の復元的修景に矛盾するという見方もあるかもしれないが、アーケード範囲を短くすることで重伝建の景観に配慮しつつ、歴史の重層性を表現したい。

**B案** 表通りにあたる本町通筋は重伝建拡張区のメインストリートとして、通りに面する町並み景観は重伝建の制度を遵守して整備するが、通りに直交する小路（こうじ）に昭和テイストの店舗が軒を連ねる「横丁」を形成させる。横丁には八百屋、魚屋、駄菓子屋、雑貨屋、居酒屋などがとところせましと並ぶ。土産物などよりも日常の食料品や生活用品の「市場」であり、飲食も可能にして、市街地内外からの集客をめざす。京都の錦小路などをイメージしてもらおうとよいだろう。江戸時代の道幅をうけつぐ食い違い路の「会所小路」と「大蓮寺小路」がその舞台となる。

**看板建築再生計画** 伝統的町家の外観を近代的にした「看板建築」の裏側には町家の意匠がよく残っており、その修景手法を検討するため、重伝建地区内魚町の空店舗「旧山市洋服店」を実測し、その復元的修景と「喫茶店」へのコンバージョンを試みた。旧山市洋服店は昭和戦前の建築で、戦後、看板建築に改装された。コンバージョン案においても外観は昭和戦前町家の意匠を採用し、インテリアは谷ロジローの漫画作品『遙かな町へ』と同年代の昭和戦後テイストを表現しながら、さらに垢抜けた現代的デザインを取り入れている（右下図）。このコンバージョンは整備案Aの一部でもあるが、A案の敷地に移築してもよいし、魚町「旧山市洋服店」の現敷地で実現することももちろん可能である。どちらにしても、今後の看板建築再生のモデルとなれば嬉しい限りである。

**住民との意見交換会** 2010年12月2日に「淀屋」（旧牧田家住宅）で中間報告会、2011年3月2日に「くら用心」で成果報告会を開催した。中間報告会では20名以上、成果報告会には40名以上の参加者があり、活発な議論が交わされた。「昭和レトロ街」構想については、実現可能性を疑う声もあったが、どちらかといえば、B案を支持する意見が多かった。



【特許登録／出願情報】 発明の名称:

発明者:

【来場者へのメッセージ】 谷ロジローの傑作『遙かな町へ』の舞台となった倉吉の町並み。江戸～明治期の景観だけでなく、近くて遠い「昭和戦後」の景観に商店をあてて、活力ある「町並み保全」のあり方を提言しています。

連絡先: 鳥取環境大学環境情報部建築・環境デザイン学科 教授 浅川 滋男

鳥取市若葉台北1-1-1 TEL. 0857-38-6775 E-mail: asax@kankyo-u.ac.jp

分野

都市史 まちなみ保全 まちづくり 保存修景計画

プレゼンタイム

無

